

ネットワークスペシャリスト 講評

【総評】

今回のネットワークスペシャリスト試験は、午前Ⅱ試験の難易度が前回よりも高くなったことが特徴として挙げられます。過去問題の再出題率に変化はありませんが、10年以上前の過去問題が増え、見慣れない問題が多いように感じられたと思います。また、計算を必要とする問題が突出して多く、時間的な難易度という点からも難しかったといえます。

一方、午後Ⅰ試験は、前回3問とも新しいプロトコルや規格について出題され、新技術の知識が直接問われる難易度の高い試験でしたが、今回はそのような特徴はなく、標準的な難易度でした。テーマとしては、問3で最近のトレンドであるローカルブレイクアウトが取り上げられたことが特徴的です。また、ここ数年で急に出题が増えたBGPが、今回も問1と問2で出題されています。

午後Ⅱ試験も午後Ⅰ試験と同様に、新技術そのものの知識が問われることはなく、標準的な難易度でした。2問とも出題されたことがあるテーマで、取り組みやすかったと思います。問1で取り上げられたEVPN(Ethernet VPN)は初出題ですが、問題文中の説明を読み取り、基本的なネットワークの知識と結び付けて解答を導いていくような問題となっています。

全体としては、合否を左右するほどの目立った特徴はなく、標準的な難易度の試験であるといえます。

【午前Ⅱ】

分野別の出題数に変化はなく、レベル4の重点分野である「ネットワーク」と「セキュリティ」の2分野で8割以上を占めています。

新規問題は8問で、前回と同じです。約7割が過去問題の再出題ということになりますが、10年以上前の過去問題からの再出題が4問あることから、10年以上さかのぼって過去問題演習を行っていないと、見慣れない問題が多いと感じたと思います。ネットワーク分野では4問が新規問題でしたが、テーマとしてはいずれも既出です。このうち、“OSPFとRIPのIPv6対応”については、OSPFやRIPは定番のテーマですが、今回問われたのはIPv6で使用されるバージョンであり、過去の出題とは観点が異なります。IPv6は一時期出題がありませんでしたが、前々回から復活し、今回はICMPv6と合わせて2問出題されています。セキュリティ分野の新規問題は2問で、このうち“CDNの利用によって影響を軽減できる脅威”は、今回の午後Ⅰ試験の問1でも出題されています。

今回は計算を必要とする問題が6問もあり、ここ10年で最多で、前回からは倍増しています。計算を含む問題は解答に時間がかかるため、時間的な難易度が高い試験だったといえます。

午前Ⅱ試験の突破率はこのところ80%を超えていましたが、今回は下がるかと予想しています。

【午後Ⅰ】

今回の午後Ⅰ試験は、前回のよう新しいプロトコルや規格に関する知識が直接問われるようなことはなく、従来技術の知識を事例内容に応用させて解答する王道的な午後Ⅰ試験に戻りました。初出題の技術や機能も一部ありますが、問題文中の説明を読み取り、従来技術の知識をもとに解答を導いていくことができます。一方で、問題文の分量が多く、6ページ~7ページもあり、時間的な余裕はありません。以上のことから

ら、午後Ⅰ試験の難易度は標準的と考えています。

問1は、CDNを題材に、負荷分散装置の振分けアルゴリズムや死活監視、BGP、DDoS攻撃対策などが取り上げられました。BGPについては、経路選択はこれまでも出題されたことがありますが、セキュリティ対策としては初めての出題です。コンテンツ配信サーバへのDDoS攻撃対策も初めての出題で、Destination Address Remote Triggered Black Hole Filtering方式とBGP Flowspecを用いる方式のそれぞれに関する説明を読み取って比較する問題が出題されています。

問2は、SD-WANを題材に、MPLS VPN、BGP、OSPF、IPsecなどのプロトコルについての知識が問われています。SD-WANは平成30年の午後Ⅰ試験で出題されたことがありますが、今回は新たにSD-WAN装置のBFD(Bidirectional Forwarding Detection)機能についても取り上げられています。BGPは問1と問2の2問で出題され、頻出テーマとなっています。

問3は、ローカルブレイクアウトを題材に、IP-IP over IPsecやPACファイル、Webプロキシ自動検出機能などについて出題されました。ローカルブレイクアウトは最近のトレンドで、実際に社内で利用していたり、雑誌などで記事を目にしていたと思います。設問で問われたのは、過去に出題されたことがあるIP-IP over IPsecやPACファイルが中心です。

<午後Ⅰ問題テーマ>

- 問1 コンテンツ配信ネットワーク
- 問2 SD-WANによる拠点接続
- 問3 ローカルブレイクアウトによる負荷軽減

【午後Ⅱ】

午後Ⅱ試験は2問とも出題されたことがあるテーマで、取り組みやすかったと思います。新しい技術知識は必要とされず、知識レベルは標準的です。2問とも図表が数多く提示され、問題文の記述だけでなく、図表からも必要な情報を読み取って解答を導くような設問が含まれ、丁寧に読み込む必要があります。総合的に判断すると、午後Ⅱ試験の難易度は標準的といえます。

問1は、データセンターのネットワークを題材に、VXLAN、VTEP、OSPF、EVPNなどについて問われています。VXLANとVTEPは平成27年の午後Ⅱ試験で出題されたことがあり、ARP通信におけるVTEPの動作など類似問題が取り上げられていることから、この過去問題演習を行っていれば有利だったと思います。EVPNは初出題ですが、問題文中の説明を読み取り、基本的なネットワークの知識と結び付けて解答を導いていくことができるようになっています。

問2は、電子メールを用いた製品サポートを題材に、電子メールのセキュリティ対策について出題されました。送信ドメイン認証のSPFとDKIM、S/MIMEなどの知識が要求されています。DKIMについては、DKIMレコード中のタグやDKIM-Signatureヘッダー中のタグなどの説明を把握し、送信ドメイン認証の流れと合わせて理解することが求められています。そのほか、DNSのゾーン情報やデジタル署名などの知識も必要です。

<午後Ⅱ問題テーマ>

- 問1 データセンターのネットワークの検討
- 問2 電子メールを用いた製品サポート

以上

この講評の著作権はTAC(株)のものであり、無断転載・転用を禁じます。

Copyrights by TAC Co.,Ltd.2024